



海辺に雪を降らせるイベントがあるということで孫たちと出かけました。5歳の姉は生まれたときから年子の弟をとっても可愛がっていて、おもちゃやお菓子も譲ってやるが多かったように思います。この日も雪遊びをひとしきり終えたあと、空気でふくらます巨大遊具の滑り台へ。

寒い中、30分くらい並んでふたりはお目当ての滑り台へ勇んで走ります。姉はちゃんと弟の手を引いて、階段を登ってやっていた。ところが1番上まで行ったところ思いのほか高かったのか弟がベソをかいてしまいました。しばらく泣いていると、あんなに並んで待っていたのに階段を一緒に降りてきます。「滑らなくていいの？」ときくとその時は、「もういい」とのこと。午前の部が終わり、昼ご飯を済ませると午後の部へ。もう一度、大型遊具が膨らんでいたの、「また行く？」ときくと弟は嫌がりましたが、姉は行くと言うので、一緒に並びました。

やっと順番がきたので「思いっきり楽しんでおいで」というと「〇〇おれへんしな」とつぶやきました。その可愛らしい本音にやっぱり我慢してたんやと思うと同時に、言ってくれたことがうれしくなりました。姉はスタスタと階段を登り、その後何度も滑って満足そうでした。お昼ご飯に食べたラーメンがすぐに冷えてしまうくらいの寒い日でしたが、こんな瞬間に出会えて心はほのぼのでした。(Y)

定年退職後、保育園や小学校で絵本を中心としたお話をするボランティアグループに入って活動しています。1月2月は小学校のお話会に参加しました。

学校によってクラスによって、子どもたちの様子はずいぶん違います。最初から興味津々でいっぱいおしゃべりしてくれる子どもたち、「楽しかった～。今日見た絵本、全部借りたい！」と笑顔で帰っていく子どもたち。なかには踊り出す子どもたちも。私たちも、あ～楽しかった～、また来年も来るよ～と思える瞬間です。

一方で、とてもまじめに静かに聴いてくれるんだけど、あんまりアクションのないクラスもありました。これ絶対受ける！と思っていた絵本に、全く笑ってもらえなくて、えっ??…。もちろん、おもしろくないよ～の表明だったらいいのですが、子どもたちがどんな気持ちなのかまったくわからなくて戸惑ってしまいました。

日頃から静かなクラスなのかな、授業中よけいなおしゃべりはしちやいけいと言われていたのかも？いつものクラスはどんな雰囲気なんだろう…。

笑えているのかな、泣いているのかな。自分の感情、思い、出せているのかな…。



絵本を通しての出会いだけではわからないよね。

ふだんの子どもたちとおしゃべりしてみたいな～、と思いました。(K)

共同子育て連絡会では、2023年7月から9月に「子どもが会うおとなが考える～平和へのとりくみって？」というテーマで学習会を3回実施しました。3回の学習会の報告を通信8号に記載し、そこから話したことを、今回の通信9号の内面に記載しています。ご覧いただいて、ご感想などいただけると嬉しいです。

2023年度下半期は、子ども情報研究センターの講座や学習会、催しがたくさんあり、共同子育て連絡会主催の学習会を企画できませんでした。しかし、いろいろな人との出会いの中で、学び合っています。

2024年度上半期は、学び合いが「倫理綱領」でつながることを目指し、皆さんの活動の場に『おじゃまんぼう』させていただきたいと考えました。その報告を、引き続き通信にまとめたいと思います。おたのしみに！

『共同子育て連絡会通信』のこれまで

- 創刊号 2022年3月 倫理綱領学習会part1 報告
- *2号 2022年6月 倫理綱領学習会part2 報告
- *3号 2022年8月 一時保育が社会を変える?!
- *4号 2022年10月 倫理綱領学習会part3 報告
- *5号 2022年12月 倫理綱領学習会part4 報告
- *6号 2023年2月 子どもが居る場所で、今、気になっていること
- *7号 2023年6月 子どものけんり なんでやねん!すごろくをやってみて
- *8号 2023年8月 平和へのとりくみって?

興味のある号を
知らせてね～

H P 『<https://kojoken.jp>』 ⇒ 研修 ⇒ 共同子育て連絡会のページへ

公益社団法人子ども情報研究センター 「共同子育て連絡会」
メール: renraku@kojoken.jp 合田由紀子 南田安紀子 国松祐子
電話: 06-4708-7087 住所: 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル5階

共同子育て連絡会通信 8号を読んで思うこと

【平和へのとりくみって?を読んで】

- ・こういう平和の捉え方もあるのかといろいろな考えに出会い、こうして考えることができる場があるということが平和なのかなと今は思う。
- ・ウクライナの報道を見るたびに、人と人が殺し合わなければならないのか疑問…母から原爆の時の状況を聞く、戦争って何にもいいことない。なんとか状況が変わって欲しいって思う。
- ・繰り返さないために、平和ボケしてる場合じゃなくて、考えていかなくっちゃいけないと思う。
- ・この会で、子どもが会おうおとなが考えると書かれている意味を考える。子どもにとってのおとなを意識したい。
- ・戦争の話、人同士の争い、考えの違い、歩み寄って、お互いに納得できるところにと思う。
- ・ウクライナのことを、思い出せることが大事。戦争がなくても、心おだやかにいられないことがある。この機会がなかったら思い出せない。
- ・絵本の絵が表現していること。平凡な毎日。平凡?平和?この平凡が、平和なんだと感じる。
- ・平凡に生きていけることが全ての人に保障されるといいな。平和って注目されるようなことだけど、淡々としたあたりまえのこと、人権なのだ。
- ・絵本から得るものって多い。戦争ってウクライナだけじゃない。利益のためにやらせている。
- ・戦争って何で起こるんだろう。戦争を起こすのは人間なのに、何で止められないんだろう。
- ・人と人とのもめごと。人って怖いなって実感することが多い。
- ・国民が亡くなっている。そこからどうして学べない?人の命をどう考えているんだ?!戦争にかかるお金を、別のことに使おうとしないんだろう。考えられないのはなぜ。

- ・日々生きてる中で、何もかも戦争につながっているのを感じる。
- ・小さなことかもしれないけれど、高校生がエコバックを持つことが広まった。自分ができることを考えてやることがだいじかな。
- ・戦争が無ければ平和なのか?武力行使、爆弾、少子化対策としての子ども、生まれてきた子どもを大切にしているのか、日本の中学生が亡くなる理由のベスト1は自殺。

【メディアからの情報を考える】

- ・報道に踊らされている私たち。日本人は何故ウクライナだけ?紛争はいろいろ起こってる。
- ・そのウクライナの報道からも離れてきた。モザイクをした報道が多くなっている。虫・排水溝にもモザイク。きたないものには蓋をする?知らされない世の中は怖い。
- ・モザイクにマヒしている自分。メディアはたたかれるからモザイクするの?ごちゃごちゃ言われるのが嫌だからする?モザイクの後ろにある映像はなんだろう?
- ・ウクライナ関連の番組の中で、みなさんは和平条約が結ばれたら、生活が元に戻ると思いませんかとの投げかけがあった。第二次世界大戦後、日本が得た復興は奇跡に近いが、戦争が終わったからと言って元には戻らない。自分の中で、答えはないが、平和、和平ということをいろいろ考える。

緑の多い公園・出入り自由のグラウンドが増えてほしい



- ・元に戻りたい社会だろうか。これまで平和な社会をつくれてこられなかった日本なのでは。
- ・反戦とは「戦争に反対」すること。非戦は「戦争ではない」方法を選択すること。90年代から非戦という言葉が出てきた。和平ができたなら平和になるのか。戦いにあらずの社会は?
- ・人間が2人集まれば行き違いはある。トラブルや争いのない関係はない。いっぱいいいさかいはある。力でねじ伏せないやり方を積み上げていくことから。

【子どもとのかかわりの中で】

- ・共同子育て連絡会通信の学習会前後のエピソードに共感した。子どもが学校から帰りいろいろ話す場面とリンクした。今回、模造紙の写真に言語化されていて、子どもと話すときの具体的な言葉を知れた。
- ・私もそこが印象に残っている。こういうことって園でよくおこること。家で子どもも話している。一緒に考えていこうと思うけれど、なかなか園や学校に提案しにくい。
- ・活動でのミーティングで一つのテーマで考えるとき、それぞれの思いは違うけれど、そういう考え方もあるのかと知っておきたい。活動の目標は、話し合っ決めていきたい。
- ・バトルゲームを子どもとしたとき、負けたチームは、「くっそー」「何であそこに置いたんや」と、一人の子どもを責める発言をする子どももいた。やってしまった…の表情の子どもに、「〇〇がんばってたもんな、誰でもミスすることあるよな」と言う子どももいた。子どもたちのやりとりから、学ぶことも多い。